

# 小林ぜんいち

## NEWS



### 中野区議会 議会報告

## 平成25年 第1回 定例会 予算特別委員会質問

### ■予算特別委員会質問

#### 1. まちづくりについて

- ①「中野区地区まちづくり条例」について
- ②「木造密集地域10年プロジェクト」弥生町3丁目地域の財源について
- ③空中権移転活用について

#### 2. 震災・防災対策について

- ①区報の活用について
- ②スタンドパイプの設置について
- ③応急給水に役立つ「応急給水型スタンドパイプ」の活用について
- ④簡易水道消火器装置(街かど消火器)の導入について
- ⑤その他(要望)
- ⑥防災公園の活用について

#### 3. 地域支えあい推進について

- ①地域支えあい活動について

#### 4. 乳幼児・子育て支援について

- ①U18プラザ事業について
- ②幼児支援について
- ③子育てサポートファイルについて

#### 5. 幼稚園・保育園行政について

- ①子ども子育て関連3法について

#### 6. 教育行政について

- ①中学校の「法教育講座」について
- ②学校現場における校務支援システムについて

#### 7. 教育行政について

- ①生活保護受給者への就労支援について
- ②就労支援について

### ■地域支えあい活動について

**小林** 全国初の「中野区地域支えあい条例」が制定、施行され2年。中野区の先進的な取り組みは、全国各地からも注目されている。

この2年間の名簿提供の推移は、この2月で110町会中、49町会に名簿を提供したと聞かすが、今後の提供増の見通しを伺う。

**答弁** 名簿の提供を希望するご相談を10以上の町会・自治会から受けている。効果的な活動事例などを紹介しているので、名簿を活用した支えあい活動が今後もふえていくものと見込んでいる。

**小林** 名簿の提供を受け、見守り支えあい活動に工夫をしながら推進している地域と、どう進めていけば良いのか悩んでいる地域があると聞く。

これから活動の推進に向け、活用に悩んでいる地域に対し、区は今後どのように活用の推進を図っていくのか、伺う。

**答弁** 地域ごとのネットワーク会議を積極的に実施してきた。2月には区全域の会議体として地域支えあい推進会議を立ち上げ、今後の見守り・支えあい活動についての現状と課題などを協議した。こうした機会での情報交換などを通じ、見守り・支えあいの取り組みを広げたい。

### ■空中権の移転活用・容積の移転活用について

**小林** 木密地域の解消策として、特例容積率適用地区を指定し、弥生町3丁目地域で使わない容積を、他の地域で使えるよう空中権・容積を移転し、民間活力を利用し空中権である容積を購入して頂き、弥生町3丁目地域へその購入費を当てはどうか。区長のご所見を伺う。

**答弁** まちづくりを進めていく中でいろんな選択肢を考えないと進まないことが出てくると思う。柔軟に考え、容積率の移転も選択肢としていきたい。





**小林** 私は、「支えあい推進の取り組み事例を発表する会議」などに参加してきた。

会議体で発表された事例や、進んでいる地域の取り組み情報を共有し、地域で手探りでやっている支えあい推進活動に対し、周知していく必要があると考える。「ネットワーク会議」で提案の有った事例などを、「(仮称)中野区地域支えあい推進事例集」としてまとめ、活用してはいかがか。事例集が、地域支えあい推進の資源になり、区が地域に寄り添うことで、地域支えあいがより一層進むと思うが、見解を伺う。

**答弁** 各すこやか福祉センターエリアを中心に進めている見守り・支えあい活動の報告事例などを、わかりやすく取りまとめ事例集を作成し、町会・自治会の活動の一助に提供をしていく。

## U18プラザ事業について

**小林** 平成25年度、仲町児童館(たかまる城)と、城山ふれあいの家(さくら館))が、U18に移行する予定。仲町児童館は、開館時間から多くの乳幼児親子や保育所の子供たちが利用している。児童館がU18へ移行に伴い、中高生利用の便宜を図って閉館時間を繰り下げる反面、開館時間が10時から10時30分に30分遅くなることで、乳幼児の生活リズムに影響が出るといった不安の声もある。開館時間10時を維持するなど、館の運営について柔軟な対応を検討すべきではないか、伺う。

**答弁** 仲町児童館は、多くの乳幼児親子に利用されているので、U18プラザとして開館する際、利用する時間帯を含め、利用者に十分配慮した館の運営を考えていく。

**小林** 子ども施設については、学校、保育園、キッズ・プラザを所管する子ども教育部と、U18プラザと児童館を所管する地域支えあい推進室が行っているが、縦割り行政を排し、地域の中で育てている全ての子どもたちのために連携し、施設が効果的に利用できるようにしてはいかがか、伺う。

**答弁** 子どもを対象とする施設は、地域支えあい推進室と子ども教育部と、区の目標体系のもと、それぞれ施設を所管している。乳幼児親子の活動場所は、地域支えあい推進室として子ども教育部所管の施設とも十分に連携をとって進めていく。

### 小林 ぜんいち

■ 区議会役職  
中野区議会 厚生委員会 副委員長  
中野駅周辺地区等整備特別委員会 委員  
中野区国際交流協会 評議員

#### ■ 資格所属団体等

(社)日本建築学会 正会員  
(社)東京建築士会 正会員  
早稲田大学稲門建築会 会員、中野稲門会 会員  
福祉住環境コーディネーター協会 会員  
マンションリフォームマネージャー、日本防災士機構 会員

#### ■ 経歴

宮本忠長建築設計事務所東京事務所16年勤務、TAF設計事務所勤務。  
教育・福祉・医療・文化・事務所・商業・宿泊・公共施設、耐震診断、耐震補強設計や住宅設計等に従事。  
独立後、建築専門学校等講師、住宅設計等に組み込む。



## 乳幼児支援について

**小林** 区内には、地域で乳幼児親子の居場所づくりの団体が多くある。

ママさんたちは、お子さんと2人だけの生活に閉塞感が有り、育児不安になる。近くにある団体が、情報交換や、ストレスが解消、成長・発達を見通せるなど、育児への自信へと繋がっている。乳幼児の子育て支援は、子育てを終えた方や、定年で退職された方、なかには専門職経験者などがボランティアとして、地域の乳幼児の支援を行っている。区はこうした取り組みに支援を行うべきではないか、伺う。

**答弁** 子育て広場事業補助要綱などを設け、区民の自主的な子育ての活動を支援している。自主的な活動の中で、活動者の層が広がっていくことが望ましい。乳幼児親子のグループ活動へのボランティアも、幅広い層の区民がかかわることができるよう支援をしていく。

**小林** 児童虐待の防止につながり、乳幼児と母親が安心して過ごせる居場所が大切と思う。「中野にはこんなに良い場所が沢山ある」と思う、「子育て支援のまち」として情報発信してはいかがか、伺う。

**答弁** 区が子育て家庭に配布している、子育て支援ハンドブック「おひるね」に、団体の紹介を掲載している。すこやか福祉センターは、活動情報をさらに収集し、支援を求める方に情報が有効に結びつく、情報発信、情報共有など工夫をしていきたい。

**小林** ゼロ歳児を初めて育てるママさんを団体が支援するとき、地域で親子が見守られ、安心できるような区のバックアップ体制を作る事が必要と思う。区は専門の職員や専門員が巡回するなど、支援策を検討してはいかがか、伺う。

**答弁** 地域で活動している団体に、今年度も研修講師としてすこやか福祉センターや子育て支援担当から職員を派遣している。今後も活動しているボランティアの方が安心して活動できるよう、区の職員がアウトリーチにより訪問するなどの支援をしていく。



HOMEPAGE  
ホームページ

小林ぜんいちオフィシャルWEBサイト

サイトURL

<http://kobayashizenichi.com/>

ブログURL

[http://blog.goo.ne.jp/kobayashi\\_zenichi](http://blog.goo.ne.jp/kobayashi_zenichi)

Facebookは、小林ぜんいち または Zenichi Kobayashi

Twitterは、小林ぜんいち または @koba\_zen